

看護における基本技術 I

活動と休息

第4回：乗移、移送、移動



2026年9月3日(木)

担当：小林裕梨子

本時の目標



【目標】

1. 患者の安全・安楽を守りながら、乗・移乗・移送・移動の援助ができる
2. 対象や看護者のボディメカニクスを活用し、援助を実践できる

基本的活動の基礎知識

ー移乗・移送・移動の基本ー

移動とは 人や物が移動する、ある場所から別の場所へ物理的に位置や場所を変えること

移乗とは 車いすやストレッチャーなどへの乗り移り動作のこと

移送とは 車いすやストレッチャーを使用して、目的地への移動を援助すること

最も気をつけなければならないことは…

患者の安全

転倒・転落、滑落の危険性をつねに念頭において援助する

基本的活動の基礎知識

ー移乗・移送・移動の基本ー

1. 移動介助の目的と適応

- 移動介助の目的は、患者が安全で安楽に移動できること
- 車いすでの介助(移送)や歩行介助(移動)は、患者の行動範囲の維持・拡大や廃用症候群の予防、気分転換など精神的な援助を目的として行うこともある
- 対象となるのは、自力で移動できない患者や治療上の活動制限がある患者など
- 移動は、排泄や入浴などADLに必要な動作であり、治療や検査を受ける場合にも必要となるため、重要である

基本的活動の基礎知識

一 移乗・移送・移動の基本一

2. 移動介助の選択

移動介助には、車いすやストレッチャーを用いる方法、歩行介助などがあり、**患者の状態に応じて適切な方法を選択**する



基本的活動の基礎知識

ー移動(歩行介助)の援助の基礎知識ー



通常の『歩行』をよく理解しておくこと

“からみた”の“Column歩行周期”を十分理解しておく

- 下肢の動きを助ける腰部、大腿部、下腿部などの筋群の働きにより体重を支えることができるか
- 股関節、膝関節、足関節などの関節がなめらかに動いているか
- 歩行では、一方の足で身体を支え、もう一方の足を前に進め、重心点を上下・左右にゆらす歩行周期を繰り返す、リズムカルな運動が可能であるか

→ 上記いずれかに何らかの問題(下肢の筋力低下、関節の動きの制限など)によって一人で立位保持やバランス保持が困難な場合、患者に合った歩行補助具を使用する

基本的活動の基礎知識 ー移動(歩行介助)の援助の基礎知識ー



1. 歩行介助の選択と適応

○歩行の安定度によって、歩行補助具の有無や種類を選択する

○歩行補助具には杖や歩行器があり、これらを用いることで支持基底面を広くし、下肢にかかる荷重を軽減させることができる



基本的活動の基礎知識 —移動(歩行介助)の援助の基礎知識—



2. 歩行介助の基本

安全のため、また体勢を崩したときにすぐ対応できるようにするために看護者の位置と支持が重要である

○位置は患側や不安定なほう

○障害がない場合は利き手と反対側

○やや後方で支えることができる位置



基本的活動の基礎知識 —移動(歩行介助)の援助の基礎知識—



2. 歩行介助の基本 転倒などの事故防止に努める



声かけに注意する

- 声かけのペースやタイミングによっては注意力が散漫になったり、驚いたりして、転倒につながる。

患者さんのペースに合わせる

- 手を引っばるなど、急がせると転倒につながる。



足元の安全を確認する

- 床がぬれていないか、また障害物がないか確認する。

視線は前に向けてもらう

- 足元を見て歩くと、前傾姿勢になることに加え、周りが見えにくくなり転倒しやすい。

装着・挿入中のチューブやライン類に注意する

- 歩行する前に接続・固定を確認し、歩行中に絡んだり、引っばられて抜けたりしないよう注意する。



基本的活動の基礎知識

—移動(歩行介助)の援助の基礎知識—



3. 歩行に適した衣服・履物

歩行時には、転倒防止のためにサイズのあった歩行しやすい衣服・履物を着用してもらう

裾が長すぎないズボン

- ズボンの裾が長いと、裾に引っかかり転倒する危険があるため、裾が長すぎず歩行の妨げにならないものにする。

サイズの合う履物

- 大きすぎず、指が動かせる程度の余裕があるものにする。

足部をしっかり覆える履物

- スリッパなどかかとのないものは、脱げやすく転倒の原因となるため、足部をしっかりと覆えるものにする。

すべりにくい履物

- 底がすべりにくい(摩擦係数が高い)ものにする。

●この他、マジックテープ式の靴は着脱しやすく、麻痺のある患者さんに有効である。また、サイズ調節もできるため、浮腫などで足の容積拡大が生じやすい患者さんにも適している。

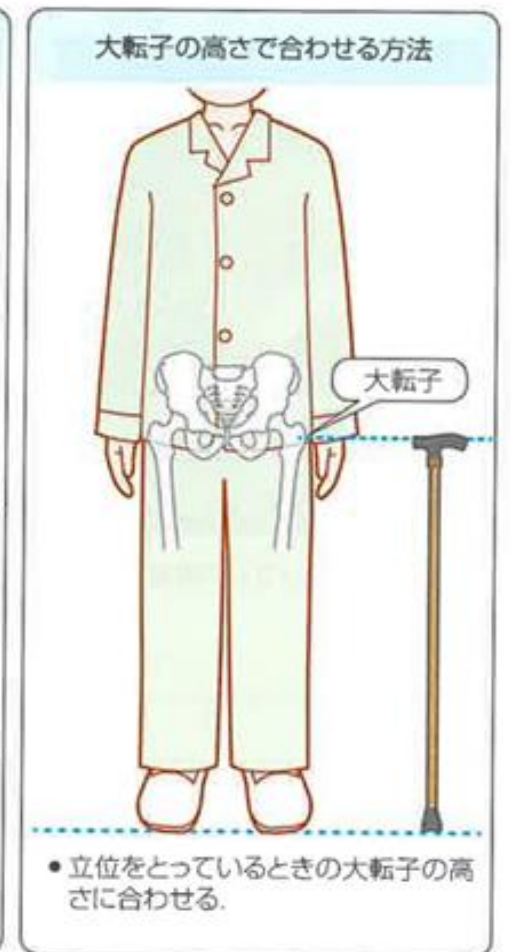
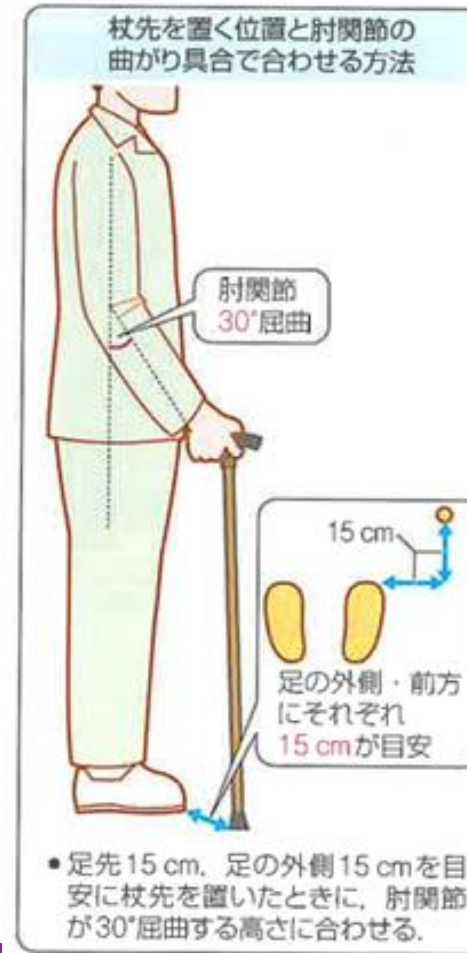
基本的活動の基礎知識

—移動(歩行介助)の援助の基礎知識—



4. 杖を用いる場合

種 類	T字杖	多脚杖	ロフトランドクラッチ
特 徴	 - 最も一般的な形の杖であり、握り(グリップ)が持ちやすい形状をしている。 - 屋内外問わず、幅広い環境で使用できる。	 脚が3本または4本に分かれた杖で、T字杖より支持基底面が広い、T字杖では歩行が不安定であり、より杖に体重をかける必要がある場合に用いる。	 前腕で身体を支えることができる。上肢の筋力が弱く手首の力だけで身体を支えるのが不安定な場合に用いる。



基本的活動の基礎知識

—移動(歩行介助)の援助の基礎知識—



4. 杖を用いる場合

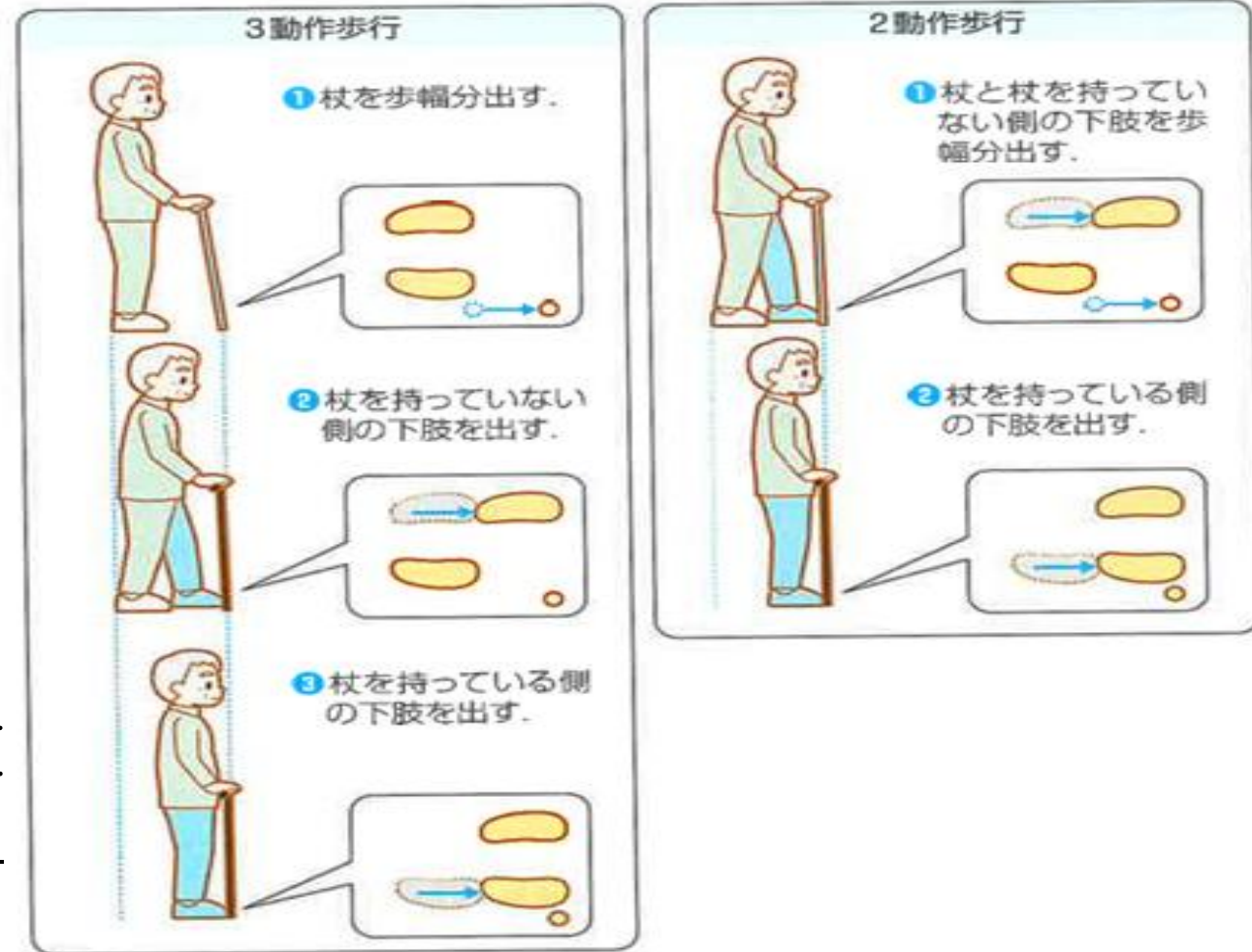
杖での歩行法

○3動作歩行

体重が常に2点で支えられるため
安定しているが、スピードは遅い

○2動作歩行

杖を持っている側の足のみで体重を支えるため、3動作歩行よりバランス保持が必要だが、速く歩ける



基本的活動の基礎知識

—移動(歩行介助)の援助の基礎知識—



5. 松葉杖を用いる場合

○腋窩と脇当てを2～3横指程度(3～5cm)あける

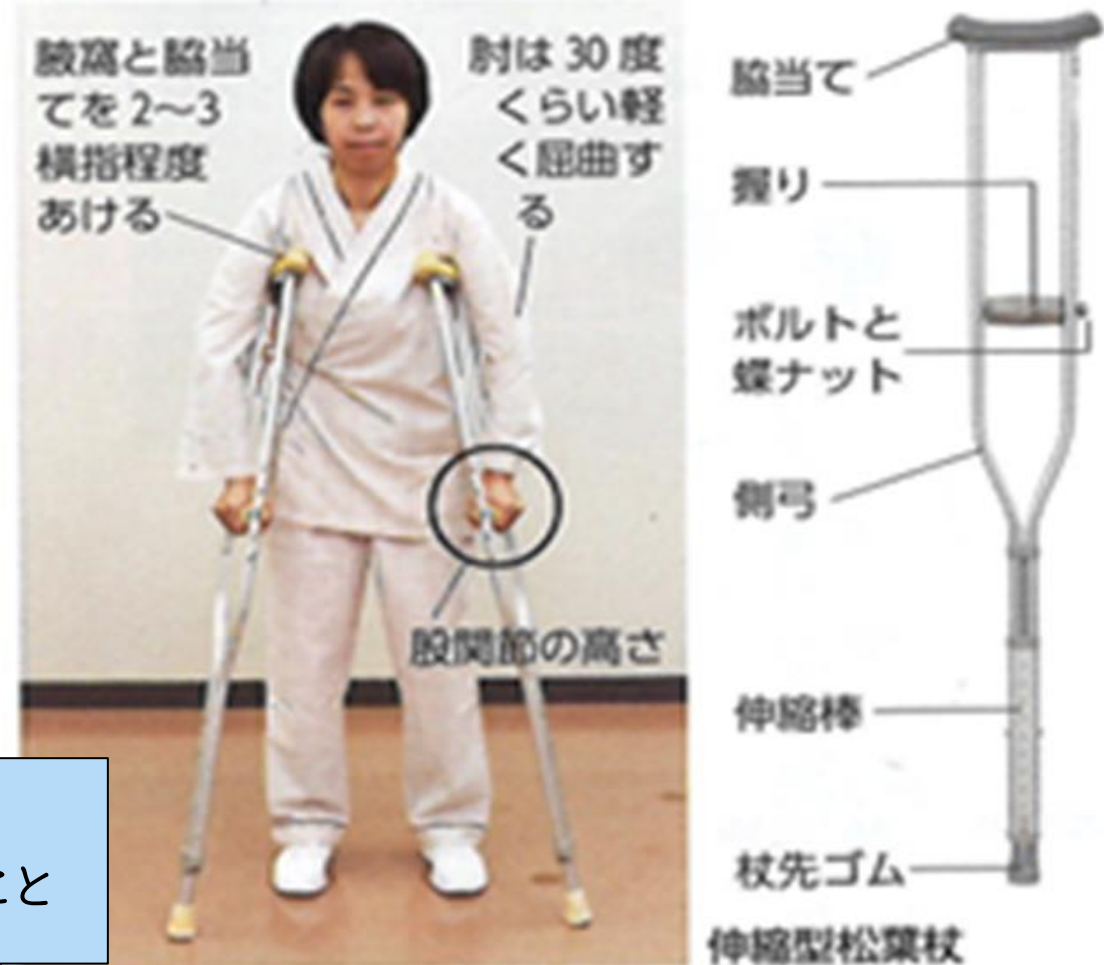
○肘は30度くらい屈曲する

○握りは股関節の高さが目安

○杖を突く位置は前に15cm、外側に15cmの位置

豆知識 

免荷とは、患部に体重(荷重)をかけないようにすること



基本的活動の基礎知識

ー移動(歩行介助)の援助の基礎知識ー



5. 松葉杖を用いる場合

安全に援助するためのポイント

○座位・立位のどちらもバランスがとれている

○上肢や体幹の筋力が強力である

○階段昇降

上り:杖⇒健側⇒患側

下り:杖⇒患側⇒健側

この2点を満たしていない場合は使用できない

基本的活動の基礎知識

—移動(歩行介助)の援助の基礎知識—



5. 松葉杖を用いる場合

安全に援助するためのポイント

【免荷の場合の階段昇降】

上り: 松葉杖を階段に残して健側を上段に乗せる⇒

松葉杖を上段に持ちあげる

下り: 松葉杖を先に下ろす⇒健側を下段におろす⇒患側は前を出す

【免荷の指示がない場合の階段昇降】

演習はこちらを実践

上り: 松葉杖を階段に残して健側を上段に乗せる⇒

患側と松葉杖を上段にもちあげる

下り: 松葉杖を先に下ろす⇒患側を下段におろす⇒健側を下段にはおろす

基本的活動の基礎知識

—移動(歩行介助)の援助の基礎知識—



6. 歩行器を用いる場合

後方への転倒と前方への転倒、両方注意すること

○肘を90度に曲げた高さに調節

○看護者は後方から介助する

この写真は少し腰が引けすぎている
歩行器の中に体幹が入っているのがベスト
【○は“からみた”参照】



基本的活動の基礎知識

ー移乗・移送の援助の基礎知識ー



1. 車いすを用いる場合

実施前に情報を得て考えること

□バイタルサイン

(体温、脈拍、呼吸、血圧など)

□座位保持能力の程度

□立位保持能力の程度

□麻痺の有無

□配慮が必要な状態かどうか

●酸素療法

●輸液

●膀胱留置カテーテル

●モニター心電図

●ドレーン

基本的活動の基礎知識 — 移乗・移送の援助の基礎知識 —

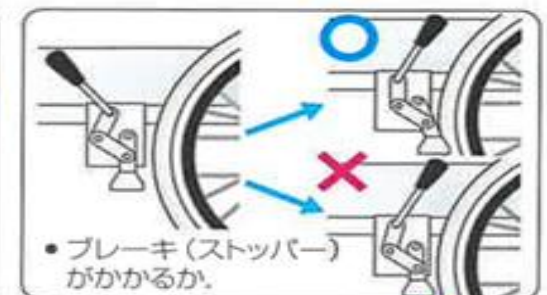


1. 車いすを用いる場合

実施前の評価

麻痺、拘縮、筋力低下、歩行障害の程度、一般状態
尿意・便意の有無

使用前の点検



基本的活動の基礎知識

ー移乗・移送の援助の基礎知識ー



1. 車いすを用いる場合 安全に援助するためのポイント

- 車いすをベッドサイドに沿わせるように置きブレーキをかける
- 車いすの配置はベッドと30度の角度になるように設置する
- 患者側、看護者側のボディメカニクス(支持基底面、重心、体重移動)を意識する



基本的活動の基礎知識 — 移乗・移送の援助の基礎知識 —



1. 車いすを用いる場合

安全に援助するためのポイント: 片麻痺のある患者の場合

○ベッドと45度の角度
になるように配置する
(アームサポートに手が
届きやすい)

○健側の頭側に置く

角 度

- ベッドと45°の角度になるように配置する。30°のときよりも患者さんの手がアームサポートに届きやすくなる。

位 置

- 健側の頭側に置く。

30° 遠い

45° 近い

手探のツツ
床頭台や点滴スタンドは、移動の妨げにならない位置に適宜移動させましょう。

1 健側の足で患側の足を動かしながら健側に移動する。

2 健側の手で柵につかまり端坐位になる。頭側に健側がくる。

3 立位になったときに健側を軸足にして車いすへ移動する。

基本的活動の基礎知識

ー移乗・移送の援助の基礎知識ー



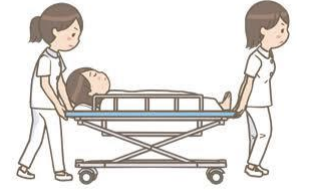
1. 車いすを用いる場合 安全に援助するためのポイント

- 移乗のときは必ずブレーキをかける
- 乗車したらフットサポートをさげ足を乗せる(足を乗せないまま動かすさない)
- 移送のときは、両手でグリップを握り左右均等に力を入れて静かに押す
- 段差の昇降はティッピングレバーを活用
- 下り坂は後ろ向きで移送
- エレベーターは後ろ向きにのる



基本的活動の基礎知識

ー移乗・移送の援助の基礎知識ー



2. ストレッチャーを用いる場合

実施前の評価

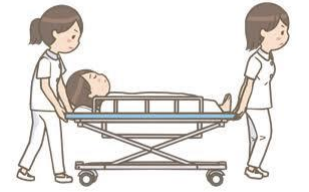
一般状態、バイタルサイン、尿意・便意の有無
膀胱留置カテーテルや点滴などのルート類

使用前の点検



基本的活動の基礎知識

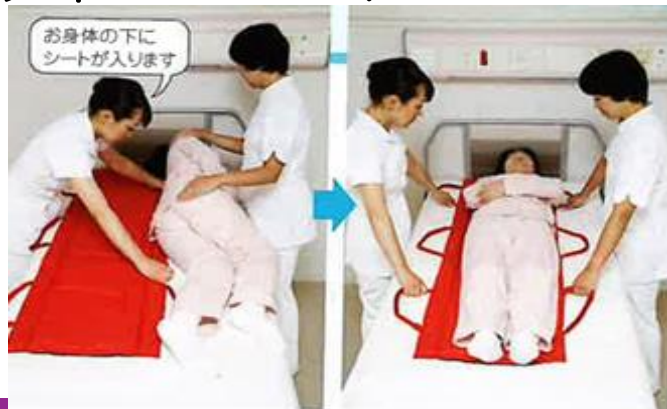
— 移乗・移送の援助の基礎知識 —



2. ストレッチャーを用いる場合 **安全に援助するためのポイント**

- 移乗に必要なスペースと人数の確保、原則移乗は4名、移送は2名以上で実施
- ストレッチャーとベッドは平行になるように設置、移乗する側の高さは約2cm低くする
- ストレッチャーとベッドの高さは、実施する看護者の身長に合わせる
- 移乗のときは、スライディングシートやスライディングボードを使用する

声を出しあって安全に



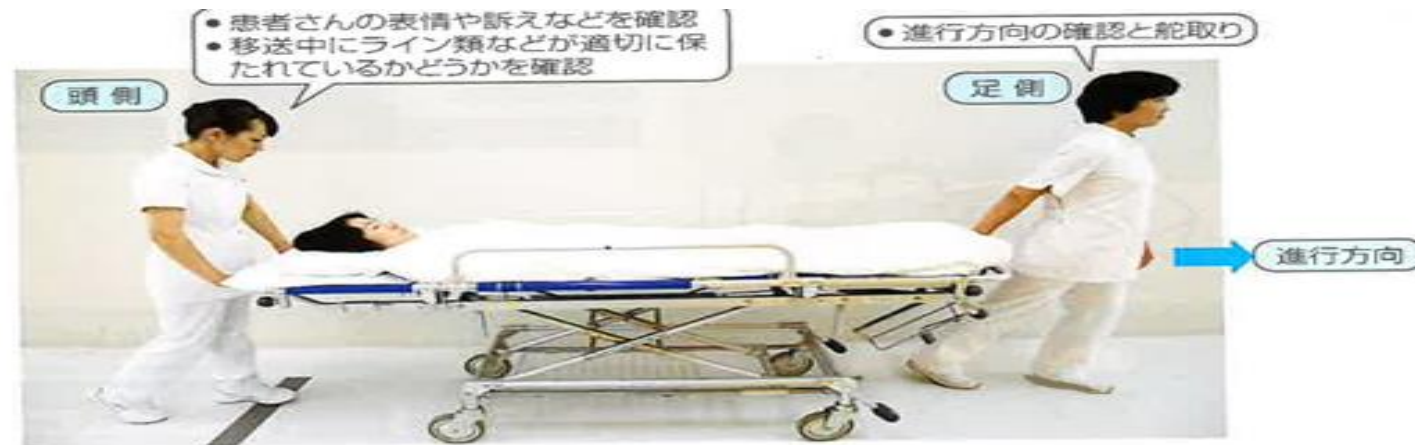
基本的活動の基礎知識

ー移乗・移送の援助の基礎知識ー



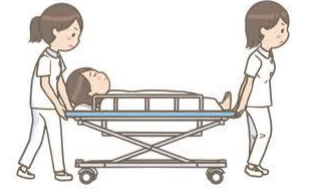
2. ストレッチャーを用いる場合 安全に援助するためのポイント

- 移乗の際、キャスターロックペダルを必ずかける
- 移乗後、サイドレールを確実にロックする
- 水平な場所では、患者の足側を進行方向に向け、先行する側が舵取りになり、反対側の看護者が患者の状態を観察しながら走行する



基本的活動の基礎知識

— 移乗・移送の援助の基礎知識 —



2. ストレッチャーを用いる場合

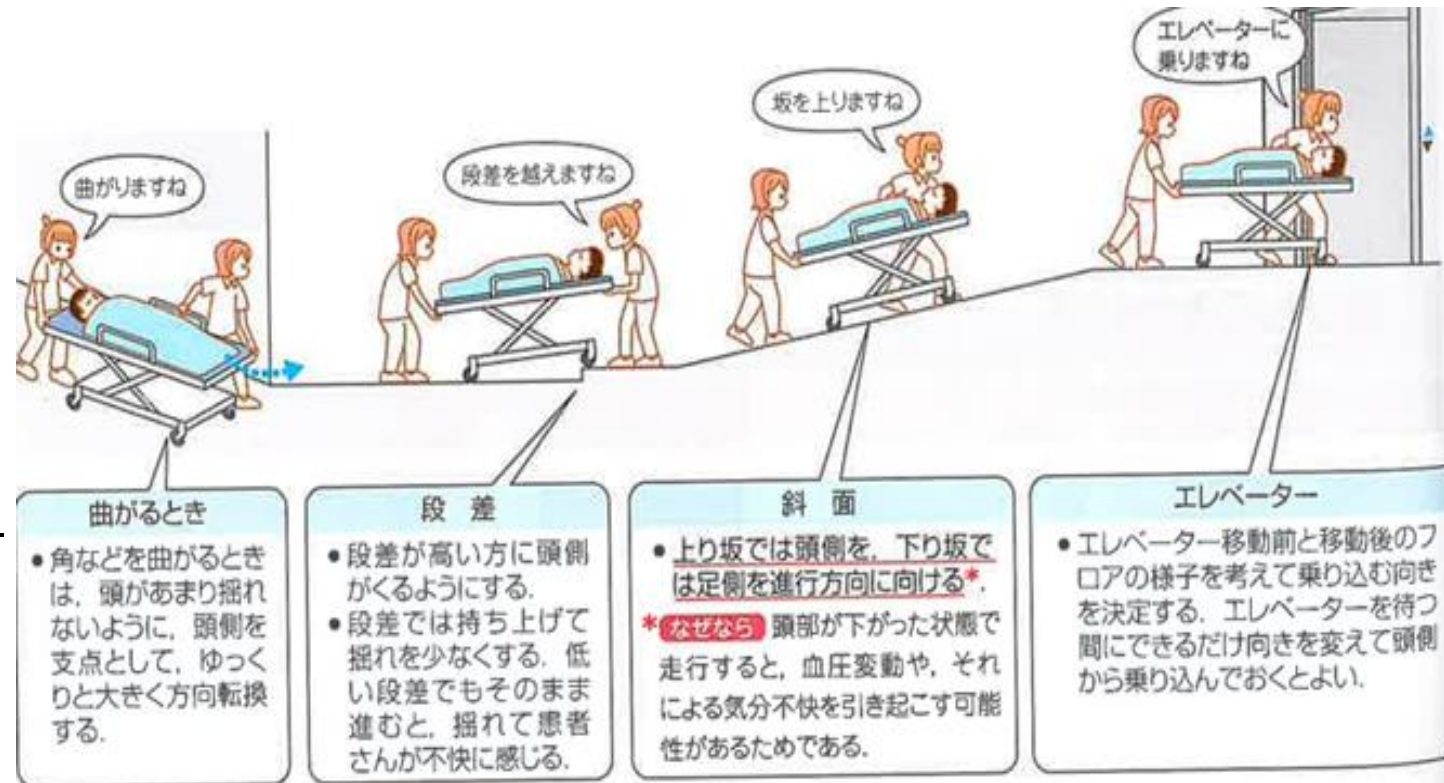
安全に援助するためのポイント

○速いスピードで移動すると全身に振動を感じて不快、**スピードに注意**する

○坂道では**常に頭部が高くなるように**して走行する

○**上り坂では頭部を進行方向に、下り坂では足側を進行方向に**

○曲がり角では、**頭側を視点として足側を回転**する



参考・引用文献

- 任 和子他:専門分野 基礎看護技術Ⅱ、第19版第2刷,(株)医学書院
- 小倉 啓史: Clinical Study5月号、第47巻第5号 通巻628号,(株)メヂカルフレンド社
- 岡庭 豊:看護がみえるVol.1 基礎看護技術第2版,第2版第3刷(株)メディックメディア
- 岡庭 豊:看護がみえるVol.5対象の理解Ⅰ 第1版,第1版第1刷(株)メディックメディア
- 岡庭 豊:看護がみえるVol.3フィジカルアセスメント第1版,第1版第5刷(株)メディックメディア